風流傾てんぐ

二

へ遠13
1732
2

へ 13
特 1732
巻 2

風流俄天狗巻之二

狂言定本

△宴　○茶屋女房　□侍

おちよぼ　ハ伊丹ハ十へいく　杉本さんが出来ものバ杉さんでも
たゞもあんといつてもおもしろ　ハ手を合さんが程なくして
じや　記しや　ゆるしまへ　お茶　杉さ
えもいつぢ　ふ一ぱふ成のめじや　杉
ぶーさやな　ぶーさんぶーさんぶーさ　天狗さんどうぢ風が吹ゆーさ
ち風ハ南風よりゆびゝ　ゆうんかとおもつて　宴
思ハばと　ておもあさりさ　宴　あ用しいぬ

聞きたるじや△ありきたりに来てゐるじや○嘘ばかりいふ
お茶屋や久しぶりじや縁ぞ呼出しなさる△おいらく見られ
しおまとが氣にかけなる相手藝子ハ一人も置てやせん○隠さ
しやんすなおつしやるな折して酒でも小言いふ縁にかけて揃さん
とハ縁に附て△昨年廣瀬やおかさんハぞよきてへ○それから盛やの
おかさんハ冬から正月へ急て給ふ時分わしが国へ引越すが
おげり通し△勝しひるすドやが任しあの事ハぬしあらかじいろん
○それ迄揚臺が出しドやとて嬉しドや△あんぞ能しい
物ハあるひろ○能しひといふから伏見町へでも行様し有りやせん
すみ角へ行あくにそれなりけるドや東居から能しい藝者

さんが出ましゃ浪人おれたいと持ハどうぞおげりもやすれ△おい
けハ能よしいおまき向じや尼出のおやまハちひが侍出のたいこ
持をあしん紋を新しく是し○女おしハ云あなたが変物じや炊
てふどけなつておじやコレおちよ俏東居へいつて浪人出の藝
者さん呼でおじや△客扇屋では今ハ縁が新ひ○女扇やでさてか
こらハ松さんハ扇やのかハ松右ハ物じや○女揚さんも日にも出ておざ
つま仕れ今扇屋お鶴日の出ろきま出の金佐ではけぬる○女あ何よし
要さんが嘘ひおる子ドやぜ△客うそいハ要のおちひのハ粋なおやるご
ドや今いから揃ひしてぐるしいふ者にうげてくるあほうれろす
ぬるさしたるさしないちるまたとうり
大小あるくおかへんといふぐるんせと上方人とそうりをそこのある人○女何あるさい
あまぐるかそくそてぞうふる女房おちつかく

人を
武士
もの
ふ

ぢやこんをでおばけ〳〵四人□先新陰使者ふもとゆーたる則ぢち
東方ためうをとうおゆーたる治人出れたいと持先遊く面
蔵八句論多年一統性名を相撲に呼びまーたる芸者子山
堀たる門実名を忠利ゆゆ八屋八お見者りおうとくぢ
され面〳〵女〳〵何ゆやいるおまくぐ義者ろうゆ□たゆーで
ごたる岑こいの八雪めゆゆや女形人の高めるうう有名何そ家
芸者ぢお客ようゆ上ゆたるるゆぐつそうて有ぬぐこちふへお
いぐいふたん四つあ面〳〵ん□ゆ悠らぐ女〳〵ゆん紙をゆばがる
るでちんちくおおいゆ岑へイヤ〳〵きれい面白ひたいとねゆへく
いつあ八南絶〳〵兵るコウゆムーしたの高ひ面ぐめゆゆや女絶ゆう

あ四〳〵〳〵おゆくの相ゆ芸者ゆゆひぐ〳〵紙物ゆやるゆ
□ゆ面ぐ番面を中上ゆべ相るゆ面ゆあ拙者雲八去西国
ぢ対紙屋ゆ仕へ年たる面京高水風ゆ悔ゆる〳〵儀れぢ〳〵
明岑の俺芸ゆゆて浪宰とゆゆうう治者へ年〳〵四し
たる松知者れ者〳〵ゆ多沒の拵菊いとおゆゆゆも悪
年ゆう辻八圭を見〳〵ゆも男ゆ〳〵ゆむるを源ぐ山
新地へ年〳〵ゆたる不則京屋火ぬ屋と中八徳屋ゆ紙有
家号ことゆ九をゆたいとねと相縁ゆ〳〵たるるイヤハゆ面
前の尚重屋松ゆ番面後〳〵たゆ面用次半ゆゆん紙ゆるどそ
ぢ俳大功八稲横をゆ〳〵見ぐといふ浦ぐぢ〳〵ぐかハち

たいと持と相あうゆゆしくおぼうゐ侍ハ
ゆせへぬどやくるゝ上面白ひ○ゆんゆおりゝんすハちひチン
ノンカンとんとふらぬおもくゝ藝者ハ有て何ぐ藝じや〳〵□成
ほど藝者の徒ハ知年より武家ハ生涯ハ多くたゞ傳授よ
るハ学ハ学びまゝ有ほど軍学ハ大体孫子呉子太公兵
学ハ〳〵下居ます〳〵ぬゝ〳〵こゝの藝者ハ学の家ハ得
こちぬおもゞ相あ様でゐくゝあべこゝゆぬ○なゆゝゝ□ゝ
武術ハ佐野利流乃流をたゝんまゝ仕ゝ居ます流ハまの神
利流柔術ハ大橋流ぐゞ〳〵ぬん○ゆんゆ紐えゝゆう
ゆ云ぶゆ故申と風ゝゝゐゐ□成程故ハ迫仲ハ諸ゝまゞうまん

万乗国学を仕ゝ居ゝ〳〵景伸まゝ関あゞに御ゆこゝるゆゝく
おぢるゝゝゝ乃ぐ多藝者男じや○ゆゞ多藝じや沢ゞまゝ
欲といゆおハ今流利ハ仕戸部のゆゝじやゝん□ゝ戸部ゝ
ゆゝゆ故人習ゝ六橋園ゆゞに変ゝ多ゝゝ〳〵ハ体まゝ
ゝゝハ仕戸ハ地ハの流利所じや者あゞハ合ハゞゆゞゆ□ハで
居今ゝゝぬくゝるハ出来みくゝゆおぢうまん○ゆんゝるゆゝ
ぢゆ物間仙ハゞゝゝゝゝゝ〳〵ゝ教ゞ出来そゝゆゝのゞゆ□仕友
のゆゝ兼〳〵おゞゝゝゞ来ゞ時を得ませぬゝゝゝぬゞゆ○あ
形さゝゝゝゝゝぬゞゝて私しゝゝゝゝゝぬゝゝゝゝゝ
いハゞゝ何でゝゝゝゝゝを云〳〵剛〳〵□柔ハ私〳〵急ゝ

手覚えおぼろげなれどおかゝさんけしからぬおのき下げなされ△何ぞ臣さへ
ありや面白かろ女房さくらとけなさるとぬぐ客△アイ々々〳〵○女紀州
まかするもうや何をさるものじやそれに□則なぞ是が大橋流ぐ
おぼゑはあれ○女何流じや手本が客を手本にすると申す
すが有物かいな△だんたん是が面しろい誠に稗でるなれ
が此藝者八清らなぬむすくなし○女あほらしいる
なれ△イヤく薬八何ほど上手じやおもわ高入て二分
金があほ出して見くなし○女いさそれられて花やかなる
どこに有物で△客が稗の背末じやかのやさくそうくの
いよ□是ハ恐れ入る薬術と清敬枝いさしてかやる

侍御術繁に取込んでまこそ痛の御しく△客おもうらハおもさが痛いて
□時に迎取れし薬の外に得毎さるゝすがおぼろげまれ是
ハ彼の丸形楊子かようおかろ御たる死活の術でおぼろ
まれ清の方ハ当来をひかえび生がくらん出の当をいれ
御しかうら△客紀州そうふち何ぼ稗でも当殺しなさとてかやうなる
めんぶ○女何いやじやいらおまへに当て世ハいやくも客に当
らまくぞの提に軽くして居るぞチウくそんなるすやめく
舞なかるゝ御のんいのんい取□侍舞ハおぼろ見れ△客舞が有ろうたらひ
く○女まや哀しく□侍御年因取の方に正月具足読開きての
書取しが舞まーたが御達みるすなわ縁びりれとて

猫堅の猫四郎へだけと敷のやう見へて茶屋さんかうあるもおく
まもへ三ヶ一ほハ遊者あげおろやなしてあのどや沢ごころ
らぬ○天物さんアりや何ぢ蔵ぐおげて酒のへ△サア武士
だいとどやなろう口論イヤ何義も覚へて来ヲイ〳〵ホ角
ゆだいとどや

思惑乃外

△ゆう袖姫　○城主医者

ゆげあうハあさ〳〵見ちぐれ一ゲ△コレおとけ御師匠さんど
ひさおいろそぐむす免あ
お帰をあ所ちら琴も三味線も直して置くたも
なんどや知ゴんが家ゲ更ふてあどぬ金体ちちおおと
さんハ親ゴのぐれるだちろいとおゆさんあもとど

稼つ〳〵ちろんるすだけろろ居るさろぬくろう書
ふけるくと云なるけても絵も来ろさんハあひ和も鶴もあ所ら
しいせ誠して姫袖でも有角ひ姫どやと家前ぐ浮
おそろどや有友遊のおよハ話聞さんゲ出来くやけん
遊角ちゆふけ和ゆーて居ろ〳〵ゆいふろやも生ろもぬ
遊附ゆと正角どやろうゲいいや神のをしに夢ハ来たぶ
ぬゲ一ツゆ〳〵のふけるふぬ物どやヲ〳〵なんといどやお
医者さんうへお国をおさと云くおくと　ぼういしゃ
の器つけくろろ医　あ後ぐぶ
ぬ人さろふく○ヲ〳〵へ〳〵ヲ真云さん侍芸男さんぐおげろ
まん○医ぞどやいゆ〳〵おゆ猪ハ△ち後ねハ者ちゆせんゲさん

文錦堂

文錦堂

ちと餅ハでござり屠蘇がおいしうおあがりなされ〇医是ハ怪からぬ
姫子ぜがおさんなるでござりや面白じやろとおかしゅうなると
人がなかまひと云ふ事を知らぬ△姫貞玄さんのおかしゅうなる事じや
ありもせぬ虚屋鰻頭も笑ひやたてられぬと云ふてわさしじや
甘ひ物が大好でござりますおあがりなされ〇医固さ物じやどしお縁見酒よ
やよ△姫中貞玄さん全体私しが病気ハ何ぞおあがりなされぬ
をく〇医サア廻りハどふでおからだを申し肩くに息くとおざる
成されるが△姫さ中すおげなものも御同廿一日に向つた御霊
さんゐるゐの事して三津寺でおはらゐまし〇医其れハ大師廻
私しのお尋申す月甘物ハどうぞおあがりなされ△姫好物甘物ハ

ありませぬと酢ものど〇医是ハ怪からぬ何でもあちらの御病気
ハおあがりのうござりや△姫おあがりなされぬ稲荷さんへ参
つたらどうぞおあがりなされ〇医元気なもおいしや何やお口の
悪ひのが病ひ縁し根へおさまりじや此ひ縁病じやや少し
其お茶けが有るなんでも私ハあまつ嬉んと是さ△姫けつぷんと
おかしや一ツもおいしく悪くおおざり為ありんが〇医能ふもよや
ならいまさんじや振袖を着ましておもふ口が縁ふてお仕合
もせん△姫サア私しもおんな大ぞうな形ぐく鯖の縁の悪くなる
私ら外聞が悪ふおざり升〇医イヱく御座しなさるなんぞん
ぼも振袖を着して出川山小結うくおげるなぞござりまし△姫

さやうなら私しも座敷のいやなお客へ出てこの○医見へ
ませうとも△娘どふのやうにしたらよく○医何もお座敷の
しんぱいにおよばずに早く直しておく事じやれ○医心得たし
しさ何でもおおきにくるしんが有ますドやなんろ△娘会がおいで
ゆるをお師匠さん前に仕出会がおいでなりますまい琴を
もうしてくれまして○医そうしておかならを見てやるに横においでなり
なさいま△左様ならお暇しなされませ先生
○医浄瑠璃ならばむだにときかおなりなされませ雑作の白
それ琴弾やうにお座鐵医者といふ者がおいでなりまして
ぢんと二会が悪ひをゆらしたるあからぢや△娘又ぢやんそ悪口

いそふなおのふく○医無理もないひ琴お糸ある十三弦ある乃
いまのは八せ三ろんお△娘ヨイヤあれしや年頃ぐおがらしまれ
もんおめでおいでいやさんくと云わるのハ恥しんの○医ないことのいやしん
むしさ其後ハいやさんと云って生ぬ△娘行ときかれしみて○医浄
コロリンシャンさん△娘まいさ待てくれ下さきとおまさ
それらん仏ドや○医それハ浄瑠璃心まおげなとうてふら私し
おいハ八ツ橋ぐおざりません△娘いかにハ八ツ橋ドやてれ人のお弟子
をのきつなき仏私ぐ紫ゑにて識るし○医イヤーあなろえ
御しこ○李霊もおおやりドや漆に雪私あでへドや△娘又あをなぐ
て無ける事じあんぷくとちらくある琴○西医猿も雪の□ぐ人ハたまるさ

なうさるな△（娘）ほんにむちや医者さまむさんな人よ○（医）なん
ぞと申しやえらせん△（娘）モウあしおやく[illegible]薬は何
じやゆるさんせいなあいおくことを極めてくれさま（？）は、
てをまくなさいやらんの○（医）イヤこちくおばけを[illegible]
老人は療治してハ四のひだおもての[illegible]しい
おまへのことを撫たふつんも出来ぬ下おまへを[illegible]
あるもど口合の前ハ[illegible]丹でんとやて療治所まつておまへ
ト その所へハ一寸目がおばけをかぶ△（娘）なうさあほうらしんだい
[illegible]じやいんでおくれ来られ○（医）わしの様にお[illegible]の[illegible]
[illegible]なたさの病気ハまやくじや△（娘）[illegible]おまへさま[illegible]

○（医）おのれが蘇りやくコレ（娘）まやくじや邪[illegible]の合[illegible]
でござるも△（娘）チイやらん貞玄さん其家のもんじやいな○（医）玄さん
く△（娘）何いふ[illegible]まゝとしまんくして思ふてま
[illegible]るてまつておまへ師匠の玄さんにはらくて[illegible]の
じや○（医）まやくじや[illegible]
縁のト[illegible]
いしや[illegible]
てゆるし△（娘）おまへ[illegible]
[illegible]○（医）[illegible]
いかぬ△（娘）[illegible]
[illegible]人[illegible]△（娘）何乃おまへがつゝ

めづらしや野でならぬちやうちんの聟人じや○医　おやま人もらん
錦絵の引しやならべて鯨ほろよひて緋ちりめんいろてうちの袖
織扇も袖も破れてさがる△狸　そとがあらく○や
うす紅羽織よ破れ扇らしきも流行しくきれまじくじや狸△身しや
おやさん○医　気がつきそうでいひたまへたまる猫うそら御ぜん
簡略ははれへ奥医者お見立のおもさのかるくは医者ぶしん
おまへじや○医　これはたれさのまことにせんがんはさもきそ
仕舞へんじられ

千代於識　□真ノ主　○松乃精　△狸

うけあひくださいますのでかならずてんくに亭主えんや
ちからもちてしよしまりかろうひて□菊の花

さて此程善ふして仕舞はさき真うやいふとのは
心配をもつおんじや此の用心第一の事を附なばよい
すでに今年お客を見る段所の楞を三分に云
つとめて置さが丁寧に仕れバ能ひがあんじやあるまい紙
くだされバおやかましく見へるかんじや海老の皮剥く
ごふらくお客は酒に酔とゑらくハ厠へ小便したり
箱部屋へ大根しなりすれば猶じや○侍合の茶を算ず
見へぬが三分が部屋一貫しおつさんがあふ女郎もよらく来る
じやげいりを娘あれ膝を目もゆく手拭えしれドロしく松の
さいあるたくさでのろのやかましい何あさハおれさでおぢうすん
あーらくみろくまかちろ

和志の為
狂言
綾語
風流
安乎

○ハタをとる　紅ろく人みな高砂の雲も音ーれ花ふぶき
□ハ〳〵紅ゐろく人ハ撞列おいおげるを西方人ゞ西さ高砂道
ふ明石もふひゞ○イヤ〳〵ゑ男ゑハたゞやわーハ世間の松れ
情ゝや情ゞ出るのゝじゃ□おるを西方ゝたゞ人ゑ孫ひるすゞや
ちるのゝ〳〵舞まり男ひ掛ゞ出ひおゞ出ゑ一ゑ出ちるゝ
と伝業西ゞ有ひ舞ひのふ○〳〵あるゝゞ出ハ松ふるゝ西風れ
屋業衣乃袖おひて来彩の業を出るゝよ□ゑ出ちるあ
ちるゝゞ趣をお掃下ゞ出ゑまいるゝれふ伝業業ゑ
じゃゞ西ゝるゝ高砂や似ゝ〳〵門ゞを掃ゝ舞業ゑ
おるゝあ彩ゝの伝連中ゞおげゝ西ふゝ〳〵ゞ出ゝ○あ西ふゝ〳〵ゞ

一ゞふゝ〳〵業ゝてハ叶ハぬあゞハゝ衣ゞや保ーあれも松ふ
孫ゞ有長ゑれゝゝ出ゝ者ゝじゃ□業西ゞゑゝ〳〵失
袖ゑゞふ侍衣乃笠ゝ業ゞ見ゝ業ゞ西ぬゞ袖彩ゝの持ゝ
おげる業ゝハ世ゞおゞいおゞふ西ゝ○ゝや世業ハ有ゝ
趣ハ出ゝる袖ゝ伝ゝ来ゝ□伝用ゝされゝゝ人ゑ形ゑゞ出ゝ
おゝゝゝ笠ハゞゝ成ゝゝゝ西ゝ○ゝゝハぬ物ゝ結ゝわーの業
ふ付ゝ業ゝゝ叶ハぬ笠おゝふ西ハ袖ふゝ知ゝらぬ彩ゝれ
伝衣ゞゝゑひゝ□ゝ書ゝるゝゞ○ゝゝ〳〵ゞ笠ゞある
いゝ〳〵来ゝるゞあゝゞゞゝゑひゝ方ぬゝゝるゝゝゝゝゝゝ一ゝゝけを
ゝゝ□ゝ狸ゝゝゝゝゝゝゝ世縁の外ハ浮世小袖の大水ゝ

折〻ハ来〻更ひてとと仕自に〈おまんじ実弟うら笠のうすと
いってどやが笠ハ和一ゲ傍つう長て長まん○ろくとび一緒生
をおく〻おるがあるとも当家のどやもひう〈異も和しゲ直し
て星毎〻〻□行を横ろ〻ろ絵ゲ雅ゲ理もせぬのふ○八ま
いの折〻〻宮へ出かるや見へうゲ水を異道えさすハもいゲ
あのいも金ある島どやナ□たゲ直ぐおげうまん程の金方
島あちちく切へ旦那さん和しぐろうと叫〻くあれ人ハ何で
おぐどうはいく○和しハ世毎の松乃情どや〈雲の情なふ戸の
ぞう仲物ちれ仲間内しや□矢絵ものつあわと一口
ふいつる物うと年経る松れ情さ毎橋長といっく〻ひおく

どや〈松樹霊うと〻〻んが大ぶなる樹霊どや有○何ぬうれ
どや甚ぶの程ふひちる和〻茶乃間の辺れ佛洞ハかふぬ
□ありちく仕ちる〻〻〈狸ど和しも狸どもちとどゞ茶乃
氣ふもれやろとはん○仕どや茶の茶ゲ茶□ちアやおろし
いろとゞ家五ハ何ろう〈〈狸和し宗道ハ水道の掃除ゲ
仕面うぬ丸〻ろう掃除ゲといはをお茶さんの宗道
ハく○世ふい植書ぐ青木調法どや□茶道具屋ゲ表ろ
〈狸おげると白れとも水ぞハぞぶくぐぶ和といまん□表面ハ
蝦ゲちくさん海〻見所れ道具屋ろ○たゲうとひけるやり
どやゲ茶ちや宝ゲハ表面ハ遠のうをやいゲ

△狸で紙一枚名を墨の室大きといへんこんぶ
ぐさと亭□おこのしらく侍しあいの内ハ格別なかなる狸ハどもと
お苦行おりとなれ○松ハ夏ものもの人の徒来もぬ
前を通るとやてトかぬきおかるゆく通ハ陸も通るぬ
本を□亭本ふら本とん△狸こうのいけのるでおぐりまんら
○松ぬもとやのまり□亭いつぬいこうすぐ寄ら○松いのをみはも
黒一ぬきはしたちうきの長ふる○松まもく家名を中間
乃△狸陸世を陸る一トぬ一も□亭家が内ハ陸世ハ知とて
△狸イヲ一ちんらが住家ハナア あ住川の川るで□亭住法らく風
ち一ら○松ぬ本ぬ紙を抜ふもろびぬ藤□亭おぬくいちんと住森

なるのも本ぬ根を抜ふ来ぬるもぐ森所ハおんるで
あろ△狸ぬ一ぬ藤間く来でぬ来ぬ来ぬ来ぬ○松ぬびぬ
のひくおちやくくひやふ会ぬへ会のまるぬくくくくくくくくくくくく
くくまん亭□足くくくくくふくくくふ思へば先別のお長道ちくく
ぬトぬ住新向ぬや△狸お乳くくい住が茶吾ふやぬちふくと
○松住会ぬ住ぬ藤の来ぬ住ぬを抜ふくく

おくれ咲　△老人侍客　○仲居

ぬげみくくくぐ仲○ア一踊ちくくコレ宮さんをとれおやんく
お長くくくくお長ども一モウ一住兎くア肥州さんお長ん酒
ふへくくでん叶ぬギヤマレでいくん吾ぐと思ひモウく

とゝいやはんどやハ〳〵まハゆ〳〵とアノ宿屋さんが宮ゐふ
ゑつゝ頼ぐ和しを教むくいとい家ゐるもとど紙心乃
物も話ゝ〳〵ゑ意の出来る物じゃやひ用ごゝろ〳〵トト
はゝ〳〵ぞふじやお花回ぼどもお清つゝ移的体見この手
○仲意さんお都〳〵いろぼるとゝやうんゐ△ぼとてえとるぐ
動れ考ひじやゑんろイヤモウ仏どもゝ年ゝ考てあか
ん様○仲アノ嘆ゐい△時ふ家の就百迄の意人ハぞふし
なの○仲ヲそうん英語いつゝお長案さんを呼なぐゝ宣張の
相ゐ出ひ物ぐ意思ゐいゝ〳〵ハ行ぬ△まゆくなるゐ
ぐぼどとゝふゝトやぼ○仲ヲ怪てらゝいゝぐ〳〵△イヤ書

仏ぐのゝ色てハ叶ゐぬ保〳〵今嘆ハ大やんてい〳〵や先
別て文章ぼ都ぼ物や保ゐめぐゝや友五ゐもえぐ〳〵ぎゐや
了ゑ見ゐゝよ座と解人持迎年ぼ出来ゝものゝや○仲ざを
ゐ相お来めの人を探めゝとゐ何ぐの相ハ△ハ〳〵時ふお新
中さ脈のゐいぐふじや○仲ぼゐゐや新ぐ和でぐぼゝとゐ△ゑ
ち和〳〵アハゝと笑ゐゝ〳〵ゐふ新来ぬ〳〵じやゐひゐ○仲ちく
迎ぐざれふゐゐふと思ひゐゐ〳〵ん何的でも時い相白ゝけ
きぐゝ〳〵ぼ用嫁じやゐんゐ△ぼゐゐやゐぐゐゐ△ぼ考
人ぐ考ひ女ゐ用ゐゐうぼハ前生の関係じや○仲何いゐちゐ
ぼいゐあぼゝゐ行可迎行毒ゐゐゝ新ゐ集ちゐい邦△

生ろを敬に敬生寓といふおう〇者は要ひおまじや是を
ろをひあさをといつるまじやうんちゃ〈サア夫なぜより弼
を物を敬ー是さでもんう〇ヲおろーなのは極ふとびくと
下戸ふ移蓋吾にやうふとび是ををけとおろくふろーさ
るを成ちをいふ〈敬和じやく全体随ふ検弱いたーて
ひくふ母ごろるまじや〇ろー家で日拍廿日ふ十両位を
おさをといふ〈ふーて二寓国うふ為ろさうう〇何いあと
ろ随ふ多ひ程宜ーひろじや〈フウ廿まの調遊傳ーい大
分筆用の要ひ物じや十ー〇なのはらーい〈雅ハ〇晩も来
ぬのふ〇なのはふも廿間うう癖でろうひと云てぶおろ

向ーこ〈時日遠年で見さがちはおく悪ふふハふいが〇仲事
まいぶおばろはん保ーい為ハ是紙来ろといくこ
味線筆ぶの業くおばろまんを用〈すで思ひ出ーさ
なのまふ上旬て是いろーいろーなが業くおぶろ用ふと
さーさ〈ふろーしたちゃいろ〈ハ〇何ぶおちろ用ふ〈ハ〇
大りんつきん是を是ー神ふ本生 おろ
生へ時和是ー〇面の伝切敬国ふ〈ハ去意ふ書て是
ーろーさが多速生来ろ伺じや御ふ為筆ひ
く〇仲おちむろて載くいろひて長ふちを〈いろ〈夏何
ろームろはたるるの新〈裁ひぶ和はたふろーハぶよ
じやトはろ白ちぬぶ〈ふ和ーがふいぶ弼ふ新ーー会ろ〈ふ

えばかりみてまぬぐひあそくるうちをたと
ゝうくゝたのんおうもとろ・らはらへぐと　牡丹あぐ宮さんふあひ
ゝあひといふ猿うく〳〵句仲〳〵○但人まにあれとなんぐらぐ惡ふ
おぎうはんぜ〳〵ちさと命をいふ見ぬ月ちやトもえしいとれ
おや仲居ぐ女の身じやうふ仲○新しも奉ふこうとのトハ
今の童はうあう〳〵ふ前富八疱瘡といのが明日見ゝ
こ紅脂ちまひとてこ〳〵新しら真白めくれハ生き赤ひぐこぐ
ぐてと人眼ふいらもぐもお遣者遊ハよりくえ爲ら如の
新はふ見稲ぐも病人れ新とえ事も新一ト目見ても
遠ふまぐコリや侍遊美ふはるて相遣ゝまい様の如ひら
見ふ美〳〵○見ふ美ふ宮さんハ疱瘡外て

侍稲ハ新ひるふ〳〵ちさ花ふ居ふ居ぬうも探し
ちく美ふう○仲何ふ新侍ふ新ふ〳〵いうふ仲ちち
つとうを美ふ新たトふ今ても嫌ぐ来ずと〳〵ふい〳〵ハ見
ぐもも武士〳〵ふ新ふさ加ふ前前前カグ紙へのれ味見て
嫌るふと張立ふトぐつふう○仲作ふ嫌ふしまれ
ふ様なふべお紙へを新〳〵選面ふう〳〵やふ〳〵嫌しを
ふも〳〵○ハイ〳〵美の如ふ仲籠足を絵自ふトふふふ
ふふふ〳〵○見近宮を美んでも仲心ふすをでふ新ふをい
損トや○ふをうふ新〳〵ぐ花損ふでぬふふふんぐ来
まれふふ〳〵ふと世界ふふしあちと〳〵○仲ふ美ぬだ〳〵ふ

○仲「あれこの立に深三味と△竹「たまにおごりておやド弥ゝ○仲
「おんぶ飛におまり△竹「扨もおれはあくいとふてどよ
なる物ぞ切なけれ△竹「むちやにおる町　仲居のつぶ
○仲「こちとも角も△竹「まうる取りも此方まとどうまうちあ何うく此
ゆゑこそこうてこうへ出る○仲「せんないぢりきてあひ気のか思ひ切なされ
ノ丶△竹「此田が思ひ入の切所○仲「情あひおまドや甚数隠八あん
じやいあ△竹「サレバ何にかくさせおぐおく○仲「大きて人が口をひ
あんぞ何ろう△竹「イヤ「落合まうや籬籠の宮は散財じや

風流俄天狗巻之二終